

八戸港沖パナマ籍貨物船海難 油流出事案作業日報（8 / 18）

本日の対応

- ・「白山」の対応

船体及び装備の点検・調整

- ・東北地方整備局との「港湾関係での災害発生時における応急対策業務に関する包括的協定」に基づく「(一社)日本埋立浚渫協会東北支部」の対応

油吸着材による防除作業

明日の対応

- ・「白山」の対応

油回収作業

- ・東北地方整備局との「港湾関係での災害発生時における応急対策業務に関する包括的協定」に基づく「(一社)日本埋立浚渫協会東北支部」の対応

油吸着材による防除作業

～八戸港沖パナマ籍貨物船の海難 油流出事案に関する取り組み～

令和3年8月11日（水）午前、八戸港内で錨泊中のパナマ船籍貨物船「CRIMSON POLARIS」が座礁により油が流出しました。第二管区海上保安本部から東北地方整備局に対する防除措置の要請を受け、大型浚渫兼油回収船「白山」（北陸地方整備局所属）が、8月13日（金）15時10分に現場海域に到着し、油回収作業を実施しております。

令和3年8月18日（水）

○大型浚渫兼油回収船「白山」の活動状況

■作業内容

船体及び装備の点検・調整

○東北地方整備局との「港湾関係での災害発生時における応急対策業務に関する包括的協定」に基づく「（一社）日本埋立浚渫協会東北支部」（以下、「埋浚」という）の活動状況

■作業内容

油吸着材による防除作業

■作業エリア



■状況写真



▲埋浚作業船 油吸着材吹き流し型による防除作業状況



▲油吸着材 上：吹き流し型
下：マット型

【参考】大型浚渫兼油回収船「白山」の概要

平成9年1月のロシア船籍タンカー「ナホトカ号」による重油流出事故では、約 6,000kl もの重油が流出し、福井県沿岸をはじめとする日本海沿岸に甚大な被害をもたらしました。

この事故をきっかけに、流出油災害の防除体制の強化が求められ、国土交通省では、
日本沿岸の油流出事故に対し、中部地方整備局「清龍丸」・九州地方整備局「海翔丸」・北
陸地方整備局「白山」の油回収船3船体制で48時間以内に現場に到着できる体制を整え
ることとし、平成14年8月に「白山」が新潟港湾・空港整備事務所に配備されました。

大型浚渫兼油回収船「白山」の諸元

- ・全長 93.9m ・幅 17.0m
- ・深さ 7.5m ・総トン数 4,185t
- ・航行速力 12.5kt(時速約 23km/h)
- ・浚渫方式 サイドドラグ式
- ・泥倉容量 1,350 m³
- ・油回収機
舷側設置式 500 m³/h×2 基
投げ込み式 250 m³/h×1 基
- ・回収油水槽容量 1,500 m³



◆大型浚渫兼油回収船 3 船体制での油回収エリア

(H：時間)

- 白山 (新潟港)
- 清龍丸 (名古屋港)
- 海翔丸 (北九州港)

